

授業等学習活動における生成 AI 活用ガイドライン（学生用）

2026 年 3 月 19 日

立命館大学教学部

昨今、生成 AI（Generative AI）技術は急速に進化しており、文章の自動生成や画像・音声の作成など、さまざまな分野で革新的な成果を上げています。これらの技術は、教育の現場においても大きな可能性を秘めており、学修支援・教材作成・業務効率化など、さまざまな場面で活用が進んでいます。大学は学問を追究し真理を探究する場であり、様々な情報に溢れた社会において、何を学び・研究したいのかを自身で考え他者と協働し判断することが求められています。立命館大学ではこうしたことから、AI リテラシーの醸成に努めるとともに、新たなテクノロジーを適切に活用しながら、学び続ける主体としての学生を育成していくことを確認し、「生成系 AI（人工知能）の利用にあたって（2023 年 4 月 25 日立命館大学教学部）」を公表しました。

本ガイドラインは、生成 AI が発展・普及する時代において、大学での授業等学習活動での生成 AI 活用の指針です。

生成 AI は、適切に活用することで、理解を深めたり、考えを整理・発展させたり、表現の幅を広げたりする助けになります。立命館大学では、生成 AI を自分で考え、学びを深めるための学習パートナーとして主体的に活用する力を育むことを重視します。

今後の生成 AI 発展の動向を踏まえ一定期間ごとに見直しを図ります。みなさんも適宜ガイドラインを確認してください。

1. 授業ごとの生成 AI 利用ポリシーを確認する

シラバス・初回の授業等において、当該授業における生成 AI 利用ポリシーを確認してください。

授業での生成 AI 利用ポリシーは、それぞれの学問分野、科目の到達目標や特性により異なります。また、授業内での課題ごとに AI の使用ガイドラインがシラバスに記載しているものと異なる場合があります。不安な点がある場合や、教員の説明で十分に理解できない点がある場合は、必ず教員に質問をして、疑問を解消してください。特に、生成 AI の生成物を論拠に用いる場合の具体的な出典の記載方法については、各学問分野の作法や担当教員の指示に従ってください。

たとえば、下表は論述課題における生成 AI 利用ポリシーの一例です。担当教員がレベル 2 と 3 を許可した場合、その範囲内で生成 AI を活用することができます。

| レベル | ポリシー | 説明 |
|-----|------|--|
| 1 | 使用禁止 | <ul style="list-style-type: none">■ 論述の準備段階、構想段階、作成段階、校正段階の全てにおいて、生成 AI は一切使用してはいけません。■ 論述は全て作成者の持つ知識・理解・技能にのみよって行う必要がある。 |

| | | |
|---|-------------|---|
| 2 | 考えの生成や整理に活用 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 論述の構想段階で、アイデア生成、構成の検討、ブレインストーミング、考えの発展などに使用できる。 ■ AI の生成物を、提出物に含めてはいけない。 |
| 3 | 文章の校正や改稿に活用 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 論述の校正段階で、誤字・脱字の点検、文法の修正、より適切な文章への書き直し等に使用できる。 ■ 論述内容に、AI による新たな内容を加えてはいけない。 ■ 文末に AI を校正に用いたことを明示する。また、校正前の文章を別途添付することが望ましい。 |
| 4 | 論述に活用し自身で検証 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 事実関係に関する論述に生成 AI の生成物を活用できるが、議論・考察は作成者が行う必要がある。 ■ 論証の構成を AI で行うことができるが、論拠は作成者自身が他の学術的資源を用いて引用する必要がある。 ■ AI の生成物を論拠に用いる場合は出典として明示する。 |
| 5 | 創造的に活用 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 論述の全ての段階で生成 AI の生成物を活用できる。 ■ 作成者と生成 AI の協働により、従来にない創造性あふれる論述のために活用を推奨する。 ■ 論述のどの部分を生成 AI で行ったか示す必要もない。 |

(参考④：Perkins et al. 2024 を参考に作成)

2. 生成物は必ず検証し、最終責任を自分で負う

生成 AI はさまざまな出典の内容を混在させて文章を出力したり、もっともらしい嘘を出力する（ハルシネーション）場合があります。生成 AI が出力した内容を利用した結果、誤った主張をしたり虚偽の成果を報告した責任は、生成 AI ではなく、それを使用したあなた自身にあります。学習活動に生成 AI を活用させる場合は、生成内容を学術文献の内容と照らし合わせるなど、学問知に依拠した学習方法を学ぶ機会にしてください。生成物を学術文献の内容と照らし合わせる力（ファクトチェック）、生成 AI を批判的に活用する力、学問における誠実性（アカデミック・インテグリティ）を身につける機会として活用してください。

また、多くの授業では、生成 AI の使用プロセスを明確にすることが求められます。学習の過程で生成 AI を使用したにもかかわらず、使用していないと偽ることは、教員との信頼関係を大きく損なう恐れがあります。以下の点に留意して、使用してください。

■ 使用過程を申告する

教員から生成 AI の活用ポリシーが示されている場合は、生成 AI をどのように使ったかを申告してください。課題の内容によっては、生成 AI をどのように活用し、どのように考えを深めたかなどの過程そのものが、学習成果として評価される場合があります。また、生成物自体を使用・活用・引用した場合は、使用したサービス名や日時などを明記してください。

■ 使用履歴を保存する

ほとんどの生成 AI サービスで、履歴の保存と共有リンクの生成が可能です。教員から提出を求められた場合に備え、使用履歴（どのようなプロンプトを出し、どのような出力があったか）を保存しておきましょう。

3. 情報セキュリティとプライバシーを守る

生成 AI への入力データは、生成 AI サービス事業者の学習データとして再利用されるリスクがあります。無自覚な情報漏洩を防ぐためにも、生成 AI 活用における倫理と情報セキュリティを理解したうえで使用してください。

■ 生成 AI 推奨環境

原則として、教育・学習に活用する場合は、大学アカウント（Rainbow-ID）でサインインした“Microsoft 365 Copilot Chat”および“Adobe Express/Firefly”を使うことを推奨します。これらは、デフォルトで、入力内容を生成 AI サービスの学習に使用されない状態で利用することができます。

■ 機密情報、個人情報の情報漏洩について

生成 AI に入力した情報は、利用規約や設定によっては第三者への回答に利用されることがあるために、情報漏洩に繋がる危険性があります。秘匿性の高い情報、未発表の論文（卒業論文およびその草稿等）や研究データ等を入力しないようにしてください。

個人情報を入力する場合は、必ず匿名化するなど、個人情報が特定されないようにしてください。

■ 生成 AI に入力すべきでない情報

(1) 個人情報（氏名・メールアドレス・クレジットカード番号等の個人に関する情報や、思想信条・病歴・家族構成等の個人のプライベートな情報）

(2) 機密情報・秘匿性の高い情報（未公開の計画・データ・資料、未発表の論文（卒業論文およびその草稿等）や研究データ、役割を担うことに伴って知り得た情報）

(3) 不適切な情報（差別や偏見を助長する情報、違法であったり犯罪に関する情報、倫理に反する情報）。また、著作権で保護される資料（文章・図表・画像・映像・音楽・プログラムコード等）は、既存の著作物と類似したものを意図した生成は行うことは著作権侵害となります。

また、授業資料自体にも著作権があり、学生自身で生成 AI に読み込ませる（アップロードする）ことは、権利侵害に当たる恐れがあります。授業での指示に従い、学習目的の範囲を超えた利用にならないよう注意してください。

4. 学習のパートナーとして活用する

生成 AI は、あなたの能力を拡張するツールであり、あなたの代わりに勉強してくれる存在ではありません。大学での学びを豊かにするには、生成 AI を主体的に使いこなし、自律的に学習を進めることが重要です。今後、大学での学習の評価は、成果物だけでなく、そこへ至る過程を重視する方向へ移行するでしょう。以下のような方法を参考に、自律的に自身を成長させるツールとして生成 AI を活用しましょう。

■ 着想を得る支援に使う

論述課題のテーマを見つけたい時、あるいは、テーマをより深く考えたい時など、自身の視点を広げる際に、テーマ案を多数列挙させるといったアイデア生成に使いましょう。

■ 理解度を確認する

試験への準備として、授業内容に関する問題生成に使いましょう。生成 AI は、多肢選択問題、穴埋め問題、短文記述など、さまざまなタイプの理解度確認問題を作ることができます。

■ 思考を発展させる

自身の考えを入力した上で、主張や論理展開に飛躍があるかを指摘してもらい、反論を指摘してもらいといった対話に使いましょう。出力内容に対して、自身の再反論を入力して考察を深めたり、見落としていた論点の出力に対してさらなる解説を求めるなど、対話的な活用を通じ、自身の理解を深めたり思考を発展させることができます。

参考資料

- ① IT support 「生成系 AI サービスの利用における情報セキュリティに関する注意事項」
<https://it.support.ritsumei.ac.jp/hc/ja/articles/20651392366105>
- ② IT support 「Microsoft 365 Copilot Chat の利用について」
<https://it.support.ritsumei.ac.jp/hc/ja/articles/53266191117209-Microsoft-365-Copilot-Chat/>
- ③ IT support 「学生は Adobe Express/Firefly を利用できるようになりました」
<https://it.support.ritsumei.ac.jp/hc/ja/articles/30502815734937>

- ④ Perkins, M., Furze, L., Roe, J., MacVaugh, J.(2024). The Artificial Intelligence Assessment Scale (AIAS): A Framework for Ethical Integration of Generative AI in Educational Assessment. *Journal of University Teaching and Learning Practice*, 21(6)